

## $^{99m}\text{Tc}$ -tetrofosmin 心筋 SPECT により冠微小血管の攣縮による 心筋虚血を診断し得た 2 例

伊藤 一貴\*      杉原 洋樹\*\*      全 完\*      彦坂 高徹\*  
足立 芳彦\*      米山 聡嗣\*      加藤 周司\*      東 秋弘\*\*\*

\* 朝日大学附属村上記念病院循環器内科  
\*\* 京都府立医科大学放射線科  
\*\*\* 同 第二内科

**要旨**  $^{99m}\text{Tc}$ -tetrofosmin 心筋 SPECT (TF) により冠微小血管における攣縮による心筋虚血を診断し得た 2 例を経験した。症例 1 は安静時胸痛を主訴とした 52 歳の男性で、心電図では III, aV<sub>F</sub> 誘導で陰性 T 波を認めた。症例 2 は安静時胸部圧迫感を主訴とした 63 歳の女性で、心電図では完全房室ブロックおよび II, III, aV<sub>F</sub>, V<sub>5</sub>, V<sub>6</sub> 誘導で ST 部分の低下を認めた。緊急で施行した TF では両症例とも下後壁に集積低下を認めた。冠動脈造影では両症例ともに左右冠動脈の心外膜血管には狭窄病変は認められなかったが、右冠動脈に造影遅延を認めた。硝酸イソソルビドの冠動脈内への注入は無効であったが症例 1 ではジルチアゼム、症例 2 ではニコランジルの冠動脈内への注入により造影遅延は消失し、胸部症状および心電図所見は改善した。治療後の TF は正常化した。以上の結果より、両症例における心筋虚血の機序として冠微小血管の攣縮が考えられた。

(核医学 37: 23-28, 2000)